

# 第30期情報システム監査専門内部監査士認定講習会

- 講習開講期間： <講義>2017年6月28日(水)～2017年7月26日(水) 通算10日間・計48時間(昼間開講)  
 ※ 講義日程・講義内容等の詳細は次ページをご参照ください。  
 <フォローアップ研修> 2017年11月上旬～中旬 1日・2時間(予定)  
 ※ 日時・会場などは追ってご連絡いたします。
- 講習会場： 一般社団法人 日本内部監査協会 木場研修室 東京都江東区木場5-5-2 CN-1ビル9階
- 講習員： 100名
- 受講費： 正会員 ¥162,000 個人会員 ¥162,000 非会員 ¥232,200 (1名につき 一税込み/分納可)
- 受講資格： 次のいずれかに該当すること。  
 1) 内部監査業務にたずさわっている方。  
 2) 1)に該当しない場合は、大学等において、会計学・商学・経営学・経済学・法学・情報学等のいずれかを学んだ方、およびこれと同等の資格・能力の方。
- 合格認定審査： 所定の課程を修め、修了論文を提出した方については、論文審査を行い、さらに講習出席状況を考慮のうえ合格者を決定いたします。合格者には認定証書とともに“情報システム監査専門 内部監査士”の称号を授与します。
- 論文提出方法： 講習期間中に受講者あて文書で通知し、講習終了後1ヶ月以内に論文提出。  
 (論文の文字数/8,000～10,000字、論文テーマ/指定テーマより1テーマを選択、論文内容/情報システムに関連する内部監査の理論もしくは実務に関するもの)
- 審査結果発表方法： 1. 合格者にはフォローアップ研修の際に認定証書を授与いたします。  
 2. 不合格者には事前に本人宛にご連絡をいたします。  
 3. 優秀論文は、当協会機関誌「月刊 監査研究」に掲載いたします。
- 合格者の特典： 当協会機関誌「月刊 監査研究」を自宅宛に1年間贈呈いたします。
- 受講申込方法： FAXの場合…受講申込書に必要事項をご記入のうえ、協会宛(03-6214-2234)にお送りください。  
 Eメールの場合…必要事項をこちらに送信してください ⇒ moushikomi@iiajapan.com  
 折り返し参加証・請求書・会場地図をお送りいたします。  
 事前の連絡なくキャンセルされた場合は、受講費の払い戻しはいたしかねますので、ご都合が悪くなられた場合は、①開講日前日までの連絡、②代理の方の出席(個人会員の代理出席については、代理の方ご本人が個人会員でなく、かつ所属企業(組織)が正会員でない場合、研修費の差額を申し受けますので、ご了承願います)③次回以降の受講へ振替、のいずれかの対応をお願いいたします。  
 ※受講申込書をお送りいただいた後、10日を過ぎても当協会より参加証が届かない、もしくはキャンセル待ちの連絡もない場合は、お手数ですがご連絡くださいますようお願い申し上げます。
- 申込書送付先： 一般社団法人 日本内部監査協会 〒104-0031 東京都中央区京橋3-3-11 VORT京橋  
 TEL: 03-6214-2231 FAX: 03-6214-2234

※受講者には『followup-qisia@iiajapan.com』のメールアドレスから情報システム監査専門内部監査士認定講習会に関する連絡事項を一齐配信いたしますので迷惑メールの設定をされている方は、このアドレスからのメールを受信できるように設定をお願いいたします。

## 第30期情報システム監査専門内部監査士認定講習会・受講申込書

<会社名> \_\_\_\_\_

<電話番号> \_\_\_\_\_

<所在地>〒 \_\_\_\_\_

受講者	部課・役職名	氏名	生年月日 (西暦)	監査経験 年数	ITに係わる 業務経験年数	受講資格(□)
		(ふりがな)	年 月 日	年	年	□ 1) □ 2)
	自宅住所			Eメールアドレス		
	〒					
	部課・役職名	氏名	生年月日 (西暦)	監査経験 年数	ITに係わる 業務経験年数	受講資格(□)
		(ふりがな)	年 月 日	年	年	□ 1) □ 2)
自宅住所			Eメールアドレス			
〒						
受講費：1名につき(税込み) <input checked="" type="checkbox"/> 正会員 ¥162,000 <input type="checkbox"/> 個人会員 ¥162,000 <input type="checkbox"/> 非会員 ¥232,200						

<審査結果の報告先(社長・部門長等あてに必要な場合)> 部課・役職名: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_

<請求書の送付先> 部課・役職名: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_

○ 部課室・役職名等に変更があった場合は、お手数ながら当会ホームページ「登録情報の変更」からお手続をお願いいたします。

一般社団法人日本内部監査協会では、わが国における内部監査の普及・啓発に向けた幅広い活動をしており、内部監査及び関連する諸分野についての理論及び研究、並びに内部監査の品質及び内部監査人の専門的能力の向上を推進するとともに内部監査に関する知識を広く一般に普及することにより、わが国の産業、経済の健全な発展に資することを目的に活動しております。

「情報システム監査専門内部監査士認定講習会」では、当協会の様々な研修会を通して身につけた内部監査の理論と実務に加え、専門分野としての情報システム監査に関する理論と実務について専門的かつ体系的に学んでいただくことを目的にしています。2008年4月以降適用となった内部統制報告制度ではITへの対応が求められ、各企業でも情報システム監査の重要性が今まで以上に高まっています。当協会が実施しております「内部監査実施状況調査（調査対象期間2015年4月から2016年3月）」においても情報システム監査の実施率が大きく上昇しており、過去最高の実施率（54.3%）となりました。調査結果では各社の監査テーマ・着眼点として「情報セキュリティ管理、情報システム投資計画、個人情報保護、情報漏洩防止、データ・バックアップ、BCP（事業継続計画）、外部委託管理、IT全般統制（ITGC）、IT業務処理統制（ITAC）等」が上げられています。

一度にこれらすべての知識を習得することは難しいものの、これらを意識しつつ、実際に情報システム監査を実施する内部監査人がおかれている実情に応じ、必要な知識を習得していくことが重要です。今回の「第30期情報システム監査専門内部監査士認定講習会」では上記、監査テーマ・着眼点を参考にしたカリキュラムとなっています。皆様の今後の内部監査実務においてお役立ていただければ幸いです。詳細な内容につきましては下記をご覧ください。

## 【第30期情報システム監査専門内部監査士認定講習会／スケジュール】

日程	時間	講義科目	講師
6月28日 (水)	9:30 ↓ 16:30	<b>◇ 情報システム監査のフレームワーク</b> 1・情報システム監査の意義と内部監査における位置づけ 2・情報システム監査の歴史 3・情報システム監査の実施状況 4・情報システム監査人に求められる知識・スキル 5・情報システム監査の技法(CAATsを含む) 6・情報システム監査に係る基準等 7・情報システム監査の品質評価 8・IoT、AI、ビッグデータと情報システム監査	東洋大学 総合情報学部 総合情報学科 教授  CIA(公認内部監査人) CISA(公認情報システム監査人) システム監査技術者 博士(工学)  <b>島田 裕次 講師</b>
6月29日 (木)	9:30 ↓ 16:30	<b>◇ 情報システム監査の実施手順</b> 1・リスク視点からの情報システム監査 2・情報システム監査の進め方とポイント 2.1 情報システム監査の計画 ・システムリスクの識別と評価 ・リスク対応と証拠資料の特定 2.2 情報システム監査の実施 ・リスク対応の実効性検証と評価 ・リスク対応の実効性を低下させる要因 2.3 情報システム監査結果の報告とフォローアップ 2.4 システムリスクのモニタリングと見直し 3・トピックス	株式会社大和総研ビジネス・イノベーション システムコンサルティング本部 副本部長(前 内部監査部長)  中央大学大学院理工学研究科 客員教授 CISA(公認情報システム監査人) システム監査技術者  <b>五井 孝 講師</b>
6月30日 (金)	13:30 ↓ 16:30	<b>◇ ネットワーク・システムの管理と監査</b> 1・ネットワークの重要性の増大 2・ネットワーク化の変遷 3・ネットワーク・システムの構成要素 4・ネットワーク・システムに関わる脅威と脆弱性 5・ネットワーク・システムの監査の要点	元 NTTデータ先端技術株式会社 セキュリティ事業部 セキュリティコンサルティング担当  中小企業診断士、システム監査技術者、 情報処理安全確保支援士、一級建築士  <b>茅野 耕治 講師</b>
7月10日 (月)	9:30 ↓ 12:30	<b>◇ 情報セキュリティの管理と監査</b> <初めに> セキュリティの重要性 1. 情報セキュリティについて 1.1 情報セキュリティの定義 1.2 情報セキュリティの範囲 1.3 情報セキュリティの取り組み方 1.4 リスクアセスメント及びリスク対策 2. 情報セキュリティの管理と監査 2.1 概要 2.2 人的セキュリティ 2.3 物理的及び環境的セキュリティ 2.4 技術的セキュリティ	株式会社ダイヘン 監査室長  CIA(公認内部監査人) システム監査技術者 情報セキュリティスペシャリスト  <b>宮坂 深志 講師</b>

7月10日 (月)	13:30 ↓ 16:30	<b>◇ 個人情報保護の管理と監査</b> 1・個人情報保護・プライバシーとは 2・改正個人情報保護法とマイナンバー制度 3・マイナンバー時代の個人情報保護監査の方法 4・役に立つ個人情報保護監査のポイント	日本システム監査人協会 副会長  CIA(公認内部監査人) CSA(公認システム監査人) システム監査技術者 博士(工学) CFE(公認不正検査士)  <b>カ 利則</b> 講師
7月11日 (火)	9:30 ↓ 12:30	<b>◇ 情報システムに係る BCM の管理と監査</b> 1・事業継続を支える ICT の概要 2・事業継続管理(BCM)の概要 (1)事業継続管理体制の整備 (2)事業継続管理体制の運用 (3)事業継続管理体制の検証 3・事例ー事業継続管理の PDCA 4・BCM 監査のためのガイドライン 5・BCM 監査の方法 6・BCM 監査のチェックポイント	デロイト トーマツ リスクサービス株式会社 ディレクター  CIA(公認内部監査人) CISA(公認情報システム監査人)  <b>堀越 繁明</b> 講師
	13:30 ↓ 16:30	<b>◇ 業務監査と情報システム監査の連携</b> 1. はじめに ~監査部の悩み~ 2. 業務監査と情報システム監査の一体化 3. 社内リソースの活用 4. 自分達が使いこなせる監査手法への改善 ① COBIT の翻訳(社内言語化) ② 監査質問項目の作りこみ 5. 明日から使える実践情報システム監査ノウハウ ① ケースブックの作成 ② アンケート収集による意識調査	株式会社ロッテホールディングス 監査部 情報システム監査専門内部監査士  <b>蛭原 良尚</b> 講師
7月12日 (水)	13:30 ↓ 16:30	<b>◇ 情報システム外部委託の管理と監査</b> 1. ITO(IT Outsourcing)監査のためのガイドラインの利用方法 2. ITO を巡るリスクのとらえ方 3. ITO 監査のアプローチ(委託元における監査と委託先の監査) 4. ITO 監査の具体的チェックポイント 5. クラウド・サービス利用のリスクと監査 6. クラウド・サービス利用の監査アプローチとチェックポイント 7. クラウドベンダーのセキュリティ管理の確認方法	一般社団法人日本内部監査協会名誉会員 日本大学商学部 日本大学大学院 商学研究科 教授・博士(商学)  <b>堀江 正之</b> 講師
7月13日 (木)	9:30 ↓ 12:30	<b>◇ 内部統制報告制度における IT統制の評価と監査</b> 1. 内部統制とIT 統制とは IT 統制の概括的な理解 2. IT 統制の評価 IT 全社統制, IT 業務処理統制, IT 全般統制 評価の流れと対象範囲の決定, 評価の留意点 3. IT 統制監査の実施 リスク, 統制目標, 整備・運用の有効性評価 検証手続と監査証跡 外部委託先の評価 4. 事例	有限責任監査法人 トーマツ アドバイザリー事業本部 パートナー  公認会計士(日本・米国オハイオ州) CIA(公認内部監査人) CISA(公認情報システム監査人)  <b>大島 嘉秋</b> 講師
	13:30 ↓ 16:30	<b>◇ 情報システムの戦略性・有効性・ 効率性の管理と監査</b>  1・IT投資について 2・前提知識 3・システムの管理手法例 4・IT投資評価 5・各社の事例 6・監査	PwCあらた有限責任監査法人 システム・プロセス・アシュアランス部長 パートナー  CISA(公認情報システム監査人) CAIS(公認情報セキュリティ首席監査人)  <b>岸 泰弘</b> 講師

7月24日 (月)	13:30 ↓ 16:30	<p>◇ <b>実例に学ぶIT統制評価の実務</b></p> <p>1・システム監査とIT統制評価の類似点、相違点 2・当社でのIT統制評価の特徴 3・IT統制評価にガイドラインを活用することのメリットは？ 4・ガイドラインを使用したIT統制評価方法 5・IT統制評価記述書(RCM)の構成 6・ロールフォワードへの対応方法 7・効率的で高品質な評価を行うための工夫 8・IT統制評価上のポイント</p>	<p>フコクしんらい生命保険株式会社 監査部長</p> <p>CIA(公認内部監査人) システム監査技術者</p> <p style="text-align: right;"><b>長島 基</b> 講師</p>
7月25日 (火)	13:30 ↓ 16:30	<p>◇ <b>情報システム監査の方向性</b></p> <p>～最新動向(SNS、クラウド、スマートフォン、BYOD、ビッグデータ、AI等)を踏まえた新しい課題と今後の方向性～</p> <p>1. 情報システム監査のパラダイムシフト 2. 情報システム監査の国際動向 3. 経営に役立つ情報システム監査 4. 組織ブランドを高めるための情報システム監査 5. さまざまな保証・認証サービスの特徴と利用方法 6. 最新の技術動向への対応</p>	<p>堀江 正之 講師 [7月12日(水)出講]</p>
7月26日 (水)	9:30 ↓ 16:30	<p>&lt;グループ演習形式&gt;</p> <p>◇ <b>ケースによる監査の模擬経験</b></p> <p>ーリスクの把握、監査のポイントの設定と コントロールの評価、改善提案などー</p>	<p>島田 裕次 講師 [6月28日(水)出講] 及び 五井 孝 講師 [6月29日(木)出講]</p>

※講習日程、講師などやむを得ず変更になる場合は、あしからずご容赦ください。

※12:30～13:30は昼食・休憩時間となります。お食事は各自でお取りください。

**【CPE単位】「60CPE単位」が付与されます。**

⇒“CPE単位”とは、CIA、CCSA、CFSA及びCRMA資格等の継続的専門能力開発制度における認定単位です。

CPEを報告される方は、受講証明の代わりとして参加証のコピーを取り、最低3年間、保管をお願いします。

※受講者には受講番号の確認、受講者間のコミュニケーション促進、講師への情報提供等のために作成する名簿〔受講番号、会社(団体)名、部課・役職名を記載〕を配付いたします。

※本申込書にご記入いただいた個人情報は、『第30期情報システム監査専門内部監査士認定講習会』の運営を推進する為に使用することを目的とします。また、法令に定める場合を除き、個人情報を事前に本人の同意を得ることなく、第三者に提供いたしません。

**【※】**災害等の影響により、研修会の開催が中止あるいは日時・会場が変更になる場合は、ホームページ等でお知らせいたします。<ホームページ><http://www.iiajapan.com/>